

みなとしみず



国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所

御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所

静岡県清水区日の出町 7 番 2 号

TEL. 0 5 4 - 3 5 2 - 4 1 4 6 (代表)

<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～CONTENTS～

- ・サファイア・プリンセス清水港初入港！
- ・下田港でフリーダイビング大会が開催されました
- ・下田港沖の海底で旧日本海軍の潜水艇を発見
- ・県内外の小学5年生が港について学習
- ・清水港湾事務所防災訓練を実施
- ・御前崎港の利用促進を図るセミナーが浜松市で開催
- ・まきのはら ビタミン2Day ウォークを完歩
- ・シリーズ「クルーズ船プロフィール」③(全5回)
- ・シリーズ「徳川家康と清水港」③(全4回)

サファイア・プリンセス清水港初入港！

平成 27 年 10 月 2 日(金)、中国の建国記念日にあたる「国慶節」に合わせた中国発着の大型客船「サファイア・プリンセス」が清水港に初入港しました。

清水港に、今年 5 月 16 日に入港した「ダイヤモンド・プリンセス」と同規模となる最大級の客船です。巨大な船体は全長 290m、総トン数 115,875トン、乗客定員 3,286名のまるで巨大な動くマンションの様な大迫力！見る人を圧倒するインパクトがありました。

中国人観光客約 2 千人を乗せた同船は上海を出港し、日本、韓国、中国などの東アジアを巡るクルーズの途中に清水港(日の出埠頭)に入港しました。

中国人観光客は、3グループに分かれ 48 台の観光バスに乗り込み、静岡市・富士宮市でのショッピングや観光、箱根のオプションツアーに参加しました。

警備スタッフや通訳を配置した静岡市葵区のデパートでは、中国人観光客約 450 人が訪れ、約 1 時間半質の良い「日本製」の商品を吟味して求め、買い物を楽しんでいた様子でした。

一方、富士宮市でのショッピングでは、水筒、靴、おむつ、食料品(お菓子、乾物、缶詰等)の日用品を買い求める姿が多数見受けられた様です。

清水港を出港する際のお見送りでは、日の出埠頭で清水区の幼稚園児が港かっぱれなどの踊りを元気よく披露し、かわいくて印象深いセレモニーが繰り広げられ、船上の観光客から大きな拍手が湧き上がりました。その後サファイア・プリンセスは、午後 4 時大勢の人に見送られ、次の寄港地である神戸港に向けて出港しました。



《見るものを圧倒するサファイア・プリンセス》



《オプションツアーバス》



《日の出岸壁出展ブース》



《幼稚園児港かっぱれ披露》

下田港でフリーダイビング大会が開催されました

平成 27 年 9 月 20 日（日）、フリーダイビング指導組織の Apnea Academy Asia^{アブネア アカデミー アジア} が主催するフリーダイビング大会「Freediving Cup 2015 in SHIMODA」の海洋競技が下田港で開催されました。

フリーダイビングとは、ボンベ等の水中呼吸装置無しで ①どれだけ長く泳げるか、②どれだけ長い時間呼吸を止められるか、③どれだけ深く潜れるか、を競うスポーツで、大きく分けて、プールを会場として①や②を競う“プール競技”、水深の深い海を会場として③を競う“海洋競技”があります。

海洋競技の会場は、深い水深に加えて競技者の安全確保のために波の穏やかな場所が望ましいことから、プール競技に比べて開催することが難しかったのですが、下田港では荒天時に船舶が避難・停泊するための水域確保を主目的とした防波堤の整備が進み、深さと波の穏やかさを兼ね備えた水域を確保できたことから、海洋競技の会場として白羽の矢が立ったものです。

大会当日は快晴に恵まれ、19名の選手が日頃のトレーニングの成果を競いました。

同大会は、下田市の観光協会や伊豆漁業協同組合等、地元関係者の幅広い協力の下で開催され、夜には漁協の魚市場を開放して盛大なウェルカムパーティーが行われました。

22日（火）には下田市敷根公園内でプール競技も開催され、大会事務局では来年以降の下田開催に意欲を見せていました。



（写真提供：Apnea Academy Asia）

下田港沖の海底で旧日本海軍の潜水艇を発見

平成 27 年 8 月 5 日（水）、地元の戦争遺産の調査プロジェクトの一環で下田港周辺の調査を行っていた民間の海洋調査会社「㈱ウインディーネットワーク」が、下田港沖の海底（水深約 38 m）で旧日本海軍の特攻用潜水艇「海龍」を発見しました。当時を知る方の証言や文献によると、終戦間際に一部の部隊が下田に配備されており、平成 11 年 9 月には、米軍により処理されたとみられる同艇が下田港内でも発見されています。

海上自衛隊が行った調査によると、今回発見された船体については残存魚雷等による爆発の恐れはなく、付近の海域での船舶の安全航行に支障はないと判断されました。今のところ引き上げの予定はなく、下田港沖で眠り続けることになりそうです。



《下田港沖の海底に横たわる「海龍」》
（写真提供：㈱ウインディーネットワーク）



県内外の小学 5 年生が港について学習

9 月、10 月は県内外の 3 つの小学校の児童と先生が、社会科学習の一環として清水港の見学や出前講座により港の役割や機能について学習しました。

9 月 17 日の八王子市立上川口小学校(10 名)は、清水への移動が便利になった圏央道を利用して来港、10 月 22 日の山梨県南アルプス市立豊小学校(35 名)は、当事務所HPの閲覧をきっかけに初めて清水港を見学しました。

両校とも当事務所所有の業務艇「まさき」による港内見学では、どの児童も船上から見る大迫力のコンテナターミナルやコンテナ船に驚きながらも興奮した様子で見入っていました。また、豊小学校は八洲水産(株)の冷凍倉庫の見学も行い、同時に清水港の漁業についての説明を受けました。冷凍倉庫では -70°C の極寒を体感しながら、興奮した様子で冷凍マグロに興味深く観察している様子が窺えました。

三島市立北上小学校(72 名)は、「貿易などの学習のため、港の役割などを説明してほしい」との要請を受け、10 月 26 日に学校に出向いて出前講座*を行いました。

講座では、暮らしを支える“港の役割”や静岡県の産業を支える活力ある“清水港の役割や機能”について説明し、どの児童も真剣に説明を聞きながら積極的にメモを取る姿が窺え、有意義な出前講座となりました。

各小学校の児童の皆さんからは、「冷凍船、修復中の船、ガントリークレーンを実際に見ることができてよかった」「海が見れてよかった」「清水港のことを詳しく知れてよかった」などの感想を数多く聞くことができました。

普段は見るのが難しい国際コンテナターミナルの荷役作業や岸壁・防波堤等の港湾施設を見学することや、港の役割を説明する出前講座を通じて、自分たちの生活にとって港の果たす役割の重要性を感じていただく貴重な場となりました。

※ 出前講座とは・・・国土交通省では、私達の行っている事業や施策についてもっと知っていただくとともに、みなさんのご意見や生の声を聞かせていただく場として「出前講座」を行っております。



《港内見学の様子》



《冷凍マグロ倉庫見学の様子》



《出前講座の様子》

清水港湾事務所防災訓練を実施

当事務所では例年 9 月に防災訓練を行っています。当事務所地域は、地震発生後十数分で津波による浸水が始まり、庁舎 1 階が水没する想定がされていることから、迅速な対応が求められています。

9 月 1 日は、津波避難訓練、初動対応訓練や消火訓練を行いました。当事務所は、近隣企業からの避難者を受け入れており、企業と一丸となって訓練を行い、命を守る意識を持ちました。

また、9 月 16 日には、清水港港湾建設工事安全協議会の会員（地元建設会社 6 社）との初動対応訓練を行いました。当事務所と当会員とは、災害時に連絡がとれない状態を想定し、津波警報等被災のおそれなくなり次第、当事務所に参集することとしており、持ち寄った資機材等で応急対策作業の割り振りシミュレーション、業務指示・応諾の手続き訓練を行い、発災時の行動を確認しました。



《高層階へ避難しライフジャケット着用》



《安全協議会会員との訓練》

御前崎港の利用促進を図るセミナーが浜松市で開催

御前崎港の利用促進を図ることを目的とした「御前崎港セミナー」が10月20日（火）浜松市内において開催されました。港を管理する静岡県をはじめ、御前崎市、牧之原市などで構成する「御前崎港ポートセールス実行委員会」が主催し、荷主企業等の関係者約200名が出席されました。

御前崎港は、静岡県中・西部地域の海上物流の拠点として、完成自動車、自動車部品の輸出、国内輸送の利用により、発展を遂げてまいりましたが、リーマンショック、東日本大震災等により、景気の低迷を受け、取扱貨物量は、以前より減少傾向にあります。また、今年4月就航が開始されたタイ・ベトナム航路が10月9日の寄港をもち廃止されるなど厳しい状況にあります。

セミナーでは、主催者、来賓等のあいさつに続き、東海大学海洋学部の篠原正人主任教授による「御前崎港の将来性」をテーマに、御前崎港の有利性として港の立地状況に加え、エネルギー・海底鉱物の拠点とし、海洋鉱物資源採掘のための支援船の基地として誘致の検討について提案されました。

このセミナーを契機として、御前崎港の有利性を広くPRし、荷主企業の増加による利用促進が図られることにより、さらなる御前崎港の繁栄、躍進が望まれます。



《主催者挨拶（石原茂雄御前崎市長）》

（写真提供：御前崎市）

まきのはら ビタミン2Day ウォークを完歩

10月17日（土）～10月18日（日）牧之原市主催による、「まきのはらビタミン2Day ウォーク」が牧之原市内で開催され、御前崎港事務所職員2名が完歩いたしました。牧之原市の偉人でビタミンを発見した「鈴木梅太郎」博士、作詞家であり昭和の歌謡界を築いた「藤田まさと」先生、経済政策で江戸幕府を立て直した「田沼意次」相良藩主を題材とし、「山のコース」、「海のコース」各3コースが設定され、完歩をめざし、牧之原市榛原庁舎をスタートしました。

1日目は「山のコース」30kmに挑戦。榛原市街地から「牧之原大茶園」、中世の山城「勝間田城」、曹洞宗の大寺院「石雲院」、「富士山静岡空港」を巡り、再び榛原庁舎を目指す、高低差約170mのコースを約6時間でゴールしました。

2日目は「海のコース」15kmに挑戦。榛原市街地から作詞家「藤田まさと」先生が眠る「照国寺」、榛原地区の医療の中心「榛原総合病院」、風光明媚な「細江海岸」を巡り、再び榛原庁舎に約3時間でゴールしました。

周辺は、牧之原台地の一角であり、茶畑が多く、秋冬番茶（4番茶）の摘み取りが盛んに行われており、茶畑では、白いお茶の花も多く見られました。また、沿道にはコスモス畑も見られ、秋の風情を多く感じられました。さらに、富士山静岡空港に隣接した石雲院展望デッキでは、離着陸する旅客機が見られました。

前日の天気予報とは大きく異なり、晴れ間が多くみられ、ウォーキングには快適な2日間でした。これもひとえに、牧之原市職員の皆様方の事前準備、当日の警備等のおかげであると感謝しております。

また、沿道に立つ牧之原市民の皆様方のご声援に勇気をいただき、完歩することができました。本紙面を借りてお礼の言葉といたします。ありがとうございました。



《榛原庁舎出発（海コース 15km）》



《照国寺付近（海コース 15km）》

シリーズ「クルーズ船プロフィール」③(全 5 回)

今回は、外国船籍のクルーズ船として、最近清水港に入港回数が多い「セブリティ・ミレニアム」について、ご紹介します。「セブリティ・ミレニアム」を所有するセブリティ・クルーズはプレミアムクラスのクルーズ船を地中海、カリブ海、アジアで展開しています。白と紺色を基調にした船体は、直線的なデザインと「X(エックス)」をデザインしたファンネル(煙突)が特徴。この「X」は、セブリティ・クルーズの創業者ギリシャ人のチャンドリスのギリシャ表記の頭文字「X」に由来しています。現在、「ミレニアム級」(294 メートル、91,000 トン) 4 隻の他に「ソルスティス級」(314 メートル、122,000 トン) 5 隻、ガラパゴス諸島クルーズ専用「セブリティ・エクスペディション」(90 メートル、2824 トン) を展開しています。

クルーズ船を所有する会社にとって、太平洋、大西洋、インド洋間の移動がスムーズになれば、より効率の良い運用が出来ますが、運河や海峡には、通過出来る船舶規格があり、規格外の船は、アフリカや南米を経由するなどの遠回りを余儀なくされます。パナマ運河や、スエズ運河、マラッカ海峡などが有名ですが、この中で、最も通過規格が狭いものが、パナマ共和国にあり太平洋とカリブ海を繋いでいる「パナマ運河」です。パナマックスという通過出来る船体の上限規格は幅が 32.3 メートルとなっています。セブリティ・クルーズは、クルーズ船の大型化に対応するため、従来所有の 7 万トン級クルーズ船より大型で、パナマ運河を通過できる 9 万トン級のクルーズ船を 4 隻導入する方針を決め、その 1 隻目として「セブリティ・ミレニアム」を 2000 年に就航しました。船名は就航した年に由来しています。船幅に対してスリムな船体は、全長 294 メートル、船幅は 32.2 メートルで、パナマ運河を通過出来る最大サイズです。

さらに特徴として、一般的なディーゼルエンジンではなく、ガスタービンエンジンを搭載した点です。ガスタービンエンジンはディーゼルエンジンより小型で高出力、騒音も軽減できるメリットがあり、発電した電力により 2 基の「ポッド型推進器」で、24 ノットという高速でのクルーズを可能にしています。

クルーズ船のほとんどは、エンジンで直接スクリューを回しているのではなく、エンジンで発電した電力



でスクリューのついたモーターを駆動しています。2000 年頃からは、従来の船体に直接スクリューを付けたものから「ポッド型推進器」を搭載する船が増えてきました。「ポッド型推進器」は、360 度回るケースに入ったモーターにスクリューがついており、船尾部分に船体より釣り下がるように設置されています。推進器自体が舵も兼ねる為、大きさの割に小回りが利き、船体の側面に付いている「サイドスラスタ」というスクリューとの併用により、タグボートを利用しなくても、接岸や離岸がよりスムーズに行われるようになりました。

乗客定員 2368 名、乗組員 999 名が乗船する「セブリティ・ミレニアム」には、2 層吹抜けのメインレストランや、眺望が楽しめるビュッフェレストランなどが有りますが、中でも有名なのは「オリンピックレストラン」です。1911 年、大西洋航路の大型客船として就航した「オリンピック」号。3 隻作られた同クラス船の 1 隻が不幸な事故で有名になった「タイタニック号」です。幸運にも戦火をくぐり抜け 24 年間活躍したオリンピック号は 1935 年惜しまれつつ解体されました。当時、内装の一部はオークションにかけられ保存されていました。「セブリティ・ミレニアム」建造の際に、保存されていたレストラン部分の内装を利用して再現したのが「オリンピックレストラン」です。当時の貴重な写真や資料が展示されており、20 世紀前半の豪華客船が再現されています。

次回は、ダイヤモンド・プリンセスのプロフィールとなります。

※ このシリーズは「クルーズ船」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載 3 回目です。

山口博史(やまぐちひろふみ) 昭和 43 年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。2012 年より昨年末でクルーズ番組を撮影。取材では主にアジア・ヨーロッパなどでクルーズ船に乗船した。

シリーズ「徳川家康と清水港」③(全 4 回)

5. 清水湊の築港

武田氏滅亡後、駿河は家康の領地となり、武田水軍の基地袋城も家康の支配下になっていた。

天正 18 年(1590)豊臣秀吉の小田原城攻略の時は袋城跡は兵站基地として利用された。奉行長束正家の指揮下に、多くの軍船や兵が結集され、兵糧米 20 万石が備えられた。

慶長 19 年(1614)、家康は駿府の町づくりの一環としてここに新たな湊町をつくり、駿府の外港とした。駿府町奉行彦坂光正に命じて袋城跡を埋め立て、町屋を建てさせた。こうして袋町、魚町、仲町、美濃町が生まれた。

江川の巴川合流点付近から、上町、本町、中町、美濃輪の沿岸部に石垣を築き、船の接岸を可能にした。

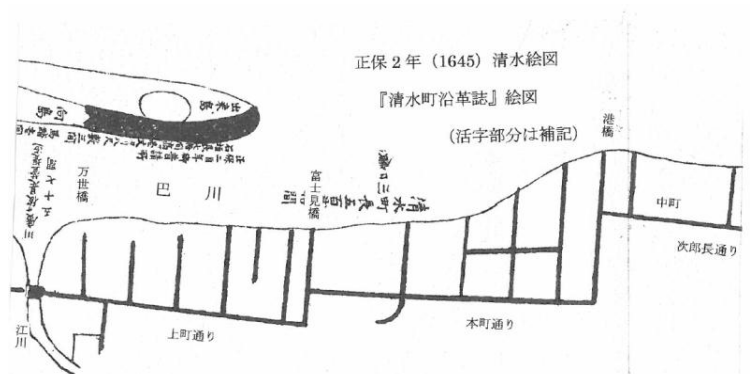
廻船問屋は本町、上町を中心に道筋に面して軒を連ね、倉庫群は船着場に沿って建てられた。清水湊は浜清水と呼ばれたこの地に誕生したのである。三ツ山の幕府水軍の基地と並んで、浜清水湊は家康の駿府政権にとって経済を支える重要な商業港となったのである。

明治時代以後、清水港が貿易港としてめざましい発展を遂げる礎となったのである。

6. 廻船問屋の成立(1)

元和元年(1615)、前年の大坂冬の陣に次いで夏の陣が起った。この時、新装なった清水湊に兵器、食糧が集められ、清水湊の海運業者らはその海上運搬の役務を命ぜられた。この戦いで家康は念頭の豊臣氏の打倒を果たした。家康は戦後物資の運搬に奉仕した浜清水の業者の功労を賞賛し、その恩賞として 42 戸の業者らに廻船問屋(諸問屋)の特権を与えた。廻船問屋の特権とは、安倍川、富士川間の沿岸部では回船業を浜清水の 42 戸の問屋(株仲間の商人)に限定し、営業の独占権を認めたことである。株仲間以外の商人が沿岸で物資の商取引をした場合は罰せられた。廻船問屋には廻船を所有し、諸国の物資の回漕・買付を主とする受払問屋と、諸国から物資を買い受け地元仲買人に売却する売買問屋があり、両者を兼ねる問屋もいた。

受払問屋は最少 1 艘、大問屋は 2 艘程度の大廻船(俗に千石船という)を所有し、清水湊には江戸初期では 60 艘前後が係留されていた。他に 500 石積以下の小廻船や五十集、はしけなど総数 200 艘ほどの船があった。また、南海路の定期船菱垣廻船や知多船も入港し、湊は大賑わいであったという。



《正保 2 年(1645) 清水絵図》

※ シリーズ「徳川家康と清水港」は杉山氏の寄稿によるもので、今回は連載 3 回目です。

杉山 満(すぎやま みつる) 昭和 11 年、静岡市清水区生まれ。日本考古学協会員。 清水郷土史研究会顧問。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなど

0120-497-370

受付時間: 9 時 30 分 ~ 12 時、13 時 ~ 17 時 (土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHS からもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは
何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村 Tel. 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

